

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.582

人間の八十八夜新茶まつり〈埼玉県〉

静岡茶、宇治茶と並んで日本三大茶のひとつと呼ばれている狭山茶。立春から数えて88日目となる5月2日には、入間市役所前の茶畑で茶摘み体験や、今年採れたばかりの新茶を味わうことができる「八十八夜新茶まつり」が開催されます。



イラスト：敦崎 花鈴

※イラストはイメージです

入間市宮寺の出雲祝神社に建つ「重蘭茶場碑(かかねてひらくちゃしょうのひ)」には、狭山茶の由来が記されている

〈磨き続ける〉

硬くて光沢のある鉄でも、磨くことを怠れば、時間の経過と共に錆が発生しやすくなります。そして、錆び始めると色がくすみ、軟らかくなって崩れてしまいます。私の先輩が「泥まみれの道に光った鉄があると、人は「何だろ」と手に取るかもしれないが、錆だらけの鉄だったら泥と同化して、人は気づかず蹴ってしまおう」と話されていました。私はこの話を「自分自身を磨くことだ」ととらえ、社会の一員として、役に立つ人になるために光らなければと思いました。

学歴が高いとか知識が豊富だとかではなく、自分が今おかれている環境で向上心を持ち続け、物事に取り組んでいく志が大切です。また、周りの人にやさしくしたり子供に愛情を注いだりと、ふとした心遣いによっても人は磨かれていくと思います。

心豊かに生活するためには、自らが率先して周囲の人に語りかけ、何か困っていることがあれば手助けするよう心掛けていますが、振り返るとなかなかそのような行動ができていないのが現状です。

ダスキンに入社して、加盟店の方々や会社の先輩の話に刺激を受け、そしてお客様のお声から多くのことを学びました。これからも自分自身を磨き続け、少しでも輝きを放ち、人にはやさしく、自分には厳しく歩んでいきたいと思えます。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



青空の下ではためくTシャツを見ているとみんな笑顔になります



高知県黒潮町「特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館」

全長4キロ、額縁のない美術館

見慣れた風景も
視点を変えれば作品に

土佐くろしお鉄道に乗り、土佐入野駅で下車。駅から10分ほど歩いて来たものの、目の前に広がるのは広大な砂浜ばかり。「ここに美術館があると聞いて来たのですが…」と不思議そうな顔で問いかける観光客に、町の人は答えます。「この4キロにわたる砂浜全部が美術館なので」。そう、ここは季節や日により変わる海の色や波、風が作る砂紋、そんなありのままの風景を「作品」として楽しむ「砂浜美術館」。そしてこの黒潮町で暮らす人の生活や、そこから生まれるモノもまた美術館の「作品」とらえているのも特徴です。

この考え方のきっかけとなったのは、約30年前にまちづくりの一環として企画した砂浜での『Tシャツアート展』でした。写真をプリントしたTシャツが砂浜にずらりと干され、気持ち良さそうにひらひらと風に揺れる様子が人目を引き、話題に。

以来、毎年行われるようになり、黒潮町を代表する名物行事となりました。

とはいえ、今まで見慣れた風景を「作品です」といっても、町の人ですら最初は「何が?」「どこが?」「こ不思議がるほど。そこで、「地域資源を活用しながらユニークな切り口で町を元気にする」ということを理解してもらおうと、まずは町の人にも作品づくりに参加してもらおうことになりました。集落ごとに一枚ずつ写真を撮ってもらい、見慣れた風景や人の顔がTシャツというキャンバスにプリントされた「作品」になるという、作り手としての感覚を伝えたのです。その結果、遠方からはもちろん、地元からも足を運んで見に来る人が年々増え、「ここに私の作品がある!」と、制作に関わったことを楽しむ人の姿とともに、砂浜美術館の考え方は町の人たちにも浸透。今では町内に8校ある小学校の4年生は必ずTシャツ展示に参加するという、町ぐるみの動きになっています。

黒潮町で暮らすことに誇りを持つ人を育てる

砂浜美術館を運営する村上理事長は「子どもたちがいつかこの町を出ても、砂浜の景色やTシャツづくりに参加した思い出を誰かに話してくれれば、そこから交流が生まれて県外の人々が黒潮町に興味を持ち、訪れることも増えると思うんです。

ひいてはそれで町全体が元気になるばこれ以上のことはありません。この砂浜美術館の考え方は国内だけでなく、世界に誇れるオリジナルアイデアだと思えます」と話します。

町への移住を決意した人もいるほど砂浜美術館の活動は広がりをみせています。美術館のメインステージである砂浜に展示される千枚ものTシャツはひらひら、ひらひらと風まかせに自由に揺れているように見えますが、美術館に関わる人たちのさまざまな思いと潮風の香りをまとい、「黒潮町において、おいで」と呼びかけてもいるようです。



NPO砂浜美術館のスタッフの熱意が町を盛り上げています



高知県特産品
カツオ
を使ったお料理

カツオの角煮の作り方



カツオは4〜6月のさっぱりした味わいがある特徴の「初鯨」、9〜11月の脂がたっぷりの「つた「戻り鯨」と年に2回の旬があります。新鮮なカツオはタタキや刺身で食べますが、余った際は保存がきく角煮にしておかずや酒の肴にするのが土佐流です。

- 材料(3~4人分)
- カツオ.....1冊(200g)
 - しょうが.....ひとかけ(20g)
 - 砂糖.....大さじ1
 - 醤油.....大さじ2
 - 酒.....大さじ1
 - 水.....1/2カップ

作り方を教えてくれた人



土佐伝統食研究会 代表
松崎 淳子さん
元教員や栄養士など長年食に関わってきた人たちで作る「土佐伝統食研究会」の代表。海・山・川・野の産物が豊かな高知県で伝承される食べ方を発掘、整理して次世代へ伝えている。



- カツオの切り身を1.5cm、2cmの厚さに切る。冷凍のカツオを使う場合は、流水で解凍を。
- しょうがは薄切りにする。千切りの場合量は量を少なめに。
- 調味料をすべて合わせて煮立てたら、カツオとしょうがを入れる。
- 落とし蓋をして中火でコトコトと煮る。煮汁がなくなればできあがり。

えがおで暮らせば

第十話

年を重ねて

春が来るたびに

毎年この時期になると、真新しい制服を着た園児たちの姿を目にします。お母さんに手を引かれながら登園する元気いっぱいのお顔を見るたびに、「娘や息子にもこんな時期があったなあ」と懐かしく思います。時が経つのは早いもので、今や彼らは人の親。気がつけば、私も71歳になりました。「こんなに年をとっちゃって…」などとおっしゃる方も多いのですが、私は年を重ねることはマイナズばかりとは思いません。たとえば、服装ひとつとっても71歳だから暗い色を選ばなきゃいけないなんて決まりはありませんよ。私は今日のようなポーターのシャツを普段からよく着ていますが、それは自分にとって着心地のいいものだから。心が

若返る“という意味もありますが、”自分は自分“という気持ちが大きいですね。

比べないことの気楽さ

こんな風に考えられるようになったのは、60歳を過ぎた頃からでしょうか。若い頃は私も人を羨んだり見栄を張ったり、他人と比べて悩んだりしました。でも、羨んでも見栄を張っても疲れるだけで、前へは進めないんです。結局成るようにしか成らないですし、悩んでいる時間があったらいいと思えるようになりまして。

「考えるのやーめた!」。そう聞き直して誰かと自分を比較しなくなつてからは、気持ちがとても楽になったんですよ。

好きなことを楽しむ

”自分は自分“と割り切れるようになってからは、好きなこと

風薫る新緑の季節となりました。景色だけでなく、気持ちにもふわりと新しい変化が訪れる春。少しだけ立ち止まって今までの人生を振り返る時間をつくってみませんか？

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。



リビングに置いている水屋には、愛着のある器が大切に収められている。一つひとつ手に取りながら出あった時のエピソードを語る姿から、そのこだわりがうかがえる。



ご主人の畑で採れた野菜は何よりも安心できる食材



農業を使わずに手間をかけて大切に育てられている畑

関する興味がどんどん湧いてきました。

私はお料理が好きですから、良い食材と出会った時はすぐ嬉しくなります。新鮮な食材を求めて少し遠くまで足を運んだり、主人の畑で採れた野菜で新たなレシピを考えたり、おいしいお料理をつくるためにいろんなことを試しました。

同時に、お料理に使う器などにもこだわられるようになりましたね。「このお料理なら、あのお皿が合いそうね」「和食器に洋食を盛りつけたらどう見えるかしら」など、お料理と器との組み合わせを考える喜びも覚えました。

人生の収穫期

主人の畑作業を間近で見えますと、人生は作物の栽培と似ている気がして、なんだか感慨深くなります。

種をまき、水をやり、汗水を流してせっせと育てていても、日照が続いたり厳しい雨風にさらされたり、うまくいかないことが多々あります。そんな困難を乗り越えながらもたくましく葉を伸ばし、美しいお花を咲かせ、やがておいしい実になるんです。

私が今、満ち足りた気持ちで日々を過ごしているのは、もしかしら人生の収穫期を迎えているからかもしれませんね。

年を重ねれば重ねるほどに、実りをいただくという贅沢な時間が味わえる。そう思うと、これからの年を重ねるのがとても楽しみで

より子さんのノート

あると便利な「木のおぼん」

お料理やお茶など、食卓に出すものには必ず「木のおぼん」を使うより子さん。大小そろえておけばいろいろな用途に使えてとっても便利なのだそうです。



① ランチョンマット代わりに
食事は平らな「木のおぼん」にのせて。布のランチョンマットと違い、汚れをサッと拭き取れるので、汁物をこぼしても気になりません。



② お茶とお菓子をセットして
お茶の際は、お菓子とともに小さな「木のおぼん」にセット。見た目にもまとまるので、ソーサーいらず。そのまま運べて便利です。



息子たちのお嫁さん

愛知県東海市 安松 美代子さん

母の日に、長男からきれいでかわいいお取り寄せの和菓子が届きました。送り主は息子の名前ですが、お嫁さんが手配してくれたものです。長男のお嫁さんはいつもいろんなお取り寄せの品を送ってくれます。自分ではなかなか買えないようなおいしいものばかりです。

次男のお嫁さんは、私の大好きなキャラクターのトートバッグをくれました。

2人ともいつもいろいろと考えてくれて、ありがたいですね。息子しかいない私にとって、2人のお嫁さんは本当にかわいい娘たちです。

いろいろと考えてくれる思いやりの心が、何よりも嬉しいですね。



お口を開けて

京都府福知山市 宮下 洋子さん

毎日、夜になると3歳の孫(男の子)が「お口を開けて」と言い、薬を一錠お口に入れてくれる。私がふざけて鼻の穴を大きく開けると、孫は怖い顔で「お口!」と怒る。その時にお茶をくれるが、なぜか必ず孫が一口飲んでから私に渡す。そして、「また、明日」と言いつて孫は自分の寝室に行く。たまに孫が来ないときは、薬を飲むのを忘れてしまつた。

頼りにしております、先生(笑)。

毎日お薬を飲ませてくれるなんて、とってもかわいらしくて優しい先生ですね。



たまには高いランチも…

長野市 矢澤 洋子さん

仲良しの友達2人と月1回、近くのファミリールレストランでのランチを楽しむようになって6年になります。店員さんもすっかり顔なじみになりました。

いつも注文するのは「日替わり定食」と「飲み放題のコーヒー」。ある時、友達の「たまにはステーキにしよう」という発案に賛同して注文すると、顔なじみの店員さんから「今日は何かの記念日ですか」と聞かれました。その真顔の問いかけに、3人はキャッキョッと大笑い。

帰宅後、家族にファミリールレストランでの出来事を話したら、夫も息子も大笑い。「ちよくちよく高いランチも食べてきなよ」。大笑いした後の夫の一言でした。

ちよつぷりの贅沢が
こんな笑い話になるなんて。

燈々無尽

愛のともしび

人はみな、弱くかたしく

さびしいものよ

生きる力は、愛のともしび

思いやり、いたわりあって

相手をせめず

生きるようになれ、愛のともしび

にこやかに、声をかければ

たのしいものよ

生きるようになれ、愛のともしび

鈴木清一



仲良し3人組

福岡県朝倉市 伊藤 裕子さん

中学の時から友人2人と私は、時々会ってはお茶する仲良し3人組。この歳になつてようやく一泊の温泉旅行が実現した。

まくら投げこそしないが、夜中まで話し込んだ。3人の出合いのきっかけは学校のクラスが一緒だったことだけ。50年の付き合いになったが、だれも仲良くなったきっかけがわからないまま。「不思議よね」の言葉で大笑いした。

孫のこと、健康のこと、しあわせを求めて3人は日々まつぐらである。

仲良し3人組の大切な思い出が
またひとつ増えましたね。



孫のやんしゃに救われる

熊本市 百々亀 尚子さん

神奈川県に住む次女には、小学1年になる娘がいます。数年前に私が上京した折、広いたんぼ畑がある近所の公園に孫と行った時の話です。

2人でママにプレゼントするたんぼぼを摘んだり、かけっこしたり、ブランコに乗ったりして遊びました。家に帰る途中、孫が私に「ばあちゃん、ママにあげるプレゼントのたんぼぼは？」と尋ねてきました。公園に忘れていたのですが、取りに戻つてびっくり!そこに家の玄関の鍵が落ちているではありませんか。たんぼぼを取りに戻つていなければ、あわてて鍵を探しまわらなければならぬところでした。

孫のやさしい気持ちに救われた一日でした。

きつとお孫さんの優しさが
鍵へと導いてくれたんでしょうね。



「ごっこ遊び」

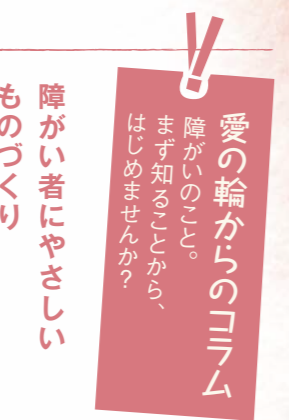
北海道帯広市 伊藤 あゆ子さん

ボランティア仲間のNさんは、小学校6年生のお孫さんと「ごっこ遊び」をしたそうです。

内容は面接試験。試験官になりきつたお孫さんの「お歳は？」という質問に、ウィットに富んだNさんは「23歳です」と返答。それに対してお孫さんは、「あらく履歴書には69歳と書いてありますか?」。さらに、口調を改めて「Nさん、若い人の中でやっていく自信がありますか?」と続けたそうです。

私は、お話を聞きながら「ごっこ遊び」の奥深さを知ったのでした。

見事な冗談のかけ合い!
お二人の仲良しぶりが伝わってきますね。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

障がい者にやさしいものづくり

私達の身の周りには、障がいのある人に配慮した製品がたくさんあります。たとえば洗濯機や炊飯器、エアコンやテレビのリモコンなど、スイッチ部分に点字が刻印された製品。また、パソコンの画面に表示された文字を人の声で伝える音声読み上げソフト。他にも音声で知らせる体温計・血圧計・体重計と
いろいろありますが、い
ずれも障がいのある人
にも便利に使ってほし
いという、工夫や想いか
ら生まれたものづくり
の精神なのです。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 http://www.ainowa.jp/



あなたのお便りや写真をお寄せください。

みなさまから送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。
- 送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

No.420からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

この新聞をお届けしているのは



お酒落な
かぶり方を
発見!

福島県川俣町
相澤 郷美さん

鳥さんと
2ショット。
仲良し!

大阪府岸和田市
白井 美智子さん



ワタシ
かわいい
でしょ?

千葉県君津市
内藤 えり香さん



みてもらおう!

読者のみなさまから
送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。

ねえ、見て!
ペロがこんなに
なっちゃった!

愛媛県大洲市
兵頭 和彦さん

春のイチゴも
おいしいよ!



鹿児島県
薩摩川内市
西中村 理美さん



蒸しパン、
モグモグ。

岩手県
一関市
高橋 涉さん



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてください!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



株式会社 **ダスキン**

発行・編集: 広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。後日商品やサービスのご案内をさせていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

ダスキンコールセンター
0120-100100 www.duskin.co.jp